Be strong but be kind. 強く、でも優しい気持ちで

校 長　桑野　啓子

１年から９年の学園のみなさん、保護者のみなさん、お元気でお過ごしでしょうか。生徒指導担当が日に２回ほど校区内の見まわりから戻りますと、地域で遊ぶ子どもたちを見かけたことや、密になって遊ぶ子どもたちにひと声かけたこと等を聞いています。子どもたちと顔を合わせてあいさつがしたいなぁ、子どもたちが先生と学習したり遊んだり、友だちと過ごす学園生活を始めたいなぁとしみじみ思っています。長い臨時休校となっています。早朝よりご家族でウォーキングされる姿をお見かけします。各ご家庭で様々な工夫もなさっていることと思います。国の緊急事態宣言が延長されました。先の見通しのなさがこんなにも不安であることを改めて実感する毎日ではありますが、子どもたちが安全に安心して学園生活ができるその日まで、いましばらくは、保護者のみなさん、地域のみなさん、引き続き子どもたちへのあたたかい見守りをどうぞよろしくお願いいたします。

連日のニュースの中で、ニュージーランドのアーダーン首相の言葉にであいました。非常事態宣言に踏み切る判断もすばやく、何度も何度も子どもにもわかる優しい言い方で自粛期間の過ごしかた等を語りかけられたそうです。そのスピーチの最後はいつもこのメッセージで締めくくられています。

…is support one another. We will get through this together. Be strong but be kind. （いまみなさんにお願いしたいことは、お互いを支えあうということです。この難局を協力して乗り切りましょう。強く、でも優しい気持ちで）

不確かで不安な長期戦ゆえに、漠たるあせりや不平不満の気持ちが芽生えそうになります。しかしこれまでの様々な「当たり前」が当たり前ではないことを知る機会ととらえ、「緊急事態」が終わってからも人に対して優しいきもちで、目の前のことに向きあいたいものです。元に戻るまで我慢しているという気持ちよりも、次から始まる準備の気持ちで。みなさんと気持ちをひとつにして、落ち着いて子どもたちを励ましていけたらと思っています。５月もどうかよろしくお願いします。